表土流亡対策に取り組みましょう

近年、集中豪雨の多発や大型の台風により、表土流亡が散見されています(写真 1)。土壌は長い年月をかけてできたものであり、適切に対策していないと営農基盤である土壌が失われてしまいます。

すでに、表土流亡により黒土層が流出して褐色ローム層や軽石層が作土のほ場では、キャベツの小玉化や生理障害等の発生事例もあるため(写真 2)、土壌を守る対策について確認しましょう。

～表土流亡軽減対策の基本～

(1) グリーンベルトの設置

グリーンベルトは、ほ場の道路際に緑肥をは種して土壌流出を防ぐ方法で、２m以上の幅があると効果が高いです(写真 3)。

嬬恋村の事例では、ペレニアルライグラス、トールフェスク、ケンタッキーブルーグラスの３種を混合して活用されており、管理としては年間２～３回程度の草刈りをします。

(2)ほ場の裸地期間を短くする(緑肥を作付ける)

収穫後はなるべく早くエンバク、ライムギ等をは種します(図 1)。イネ科緑肥を活用することで表土流亡を抑えるだけでなく、土壌物理性(水はけ)の改善や有機物の補給、品種によっては一部の病害虫の軽減効果も期待できます。

緑肥をは種できない場合は、鎮圧輪でも効果があります。

(3)流出した土壌も管理する

降雨やトラクター作業後には道路(排水路)等へ表土流出することがあります。その際は、耕作者がほ場へ戻しましょう。

写真 1　台風 19 号による被害

写真 2　表土流亡による生育不良

写真 3　グリーンベルト設置ほ場

緑肥作物	主な品種	は種適期	は種時期											
			8月			9月			10月			11月	12～３月	4月
			上	中	下	上	中	下	上	中	下			
エンバク (*Avena strigosa*)	ニューオーツ	８月	○――	――	○----	----	----	----	----	----	----	すき込み		
ライムギ	ライ太郎 ダッシュ	8月下旬～ 9月中旬		○――	――	○----	----	----	----	----	----	すき込み		
	R-007 緑春	9月中旬～ 10月上旬			○――	――	○----	----	----	----	----	----	----	すき込み

図１　各イネ科緑肥作物のは種適期およびすき込み時期例(高冷地基準)

【問い合わせ先】　吾妻農業事務所普及指導課長野原係　TEL：0279-82-2054
長野原町役場産業課農林係　TEL：0279-82-3013